



分科会 13 求められる地域連携・薬薬連携 —地域社会で薬剤師業務の展開を—

W-13-01 地域連携ネットワークと新たな薬剤師の役割

むとう まさき
武藤 正樹

国際医療福祉大学大学院医療経営管理分野 教授

2008年4月より新たな地域医療計画がスタートした。この新たな医療計画において、これまでの医療連携のあり方が大きく変わり、4疾病5事業ごとに地域連携ネットワークを形成することになった。

そして新たな医療計画の中で、特筆すべきことは地域の保健薬局が、「医療提供施設」としてはっきりと以下のように明記されたことだ。「医療計画の4疾病・5事業にかかる医療連携体制の中で、調剤を中心とした医薬品や医療・衛生材料の供給拠点としての役割を担うことが求められる」。

こうした医療法改正の趣旨から、これからの保険薬局には地域の医療チームの一員として地域医療連携に積極的に貢献することが求められる。

講演では全国各地で始まっている保険薬局の地域での取り組み、保険薬局の地域連携クリティカルパスへの参画や、保険薬局薬剤師の急性期病院における退院前カンファレンスへの参加、在宅医療における保険薬局の積極的な貢献などの事例に言及したい。

そして21世紀の新たな薬剤師の以下の4つのスキルについても言及したい。カルテ共有、フィジカル・アセスメント、リフィル調剤、ジェネリック医薬品への変更調剤。